

平成28年 決算特別委員会(知事総括) 開催状況

開催年月日 平成28年11月11日

質問者 日本共産党 真下 紀子 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p>二 地方交通について</p> <p>(一) 事業範囲の見直しに対する受け止め等について JR北海道の事業範囲の見直しが、道民の暮らしや経済に与える影響について、知事はどれほど重要なことかと思っていられるのか伺いたいと思います。 また、線区の見直しが見込まれる宗谷本線や根室本線、札沼線といった沿線自治体の首長さん達から、存続を切実に求める声が寄せられておりますけれども、どのように受け止めているのか、あわせて伺います。</p> <p>(二) 基金運用益の減収に係る道の対応について 見直しの影響というのは計り知れないものがあるのではないかと考えております。 JR北海道の経営悪化の最大の原因は何かということなのですが、国鉄の分割民営化当時に設置した経営安定基金、この金利が国策によって引き下げられて、国の当初の見込みどおりに機能してこなかったことにあるというのは周知のことだと思います。 当初の見込みと実際の運用益の差は、2015年度までの29年間で、実に4,300億円以上になっているわけですが、国からはこの乖離を埋めるだけの支援はこれまで行われてきませんでした。 この問題に関して、道はこれまでどのような要請や交渉を行ったのでしょうか。</p> <p>(三) 国と道による抜本的な支援について 要請は行われてきたのだと思いますが、国と交渉するというところまでは、知事を先頭にした動きというのは見えないのではないかと思います。 道は今後、ワーキングチームを設置して、本道における鉄道網のあり方などを集中的に議論し、年度末までに結論を出すとしていますけれども、JR北海道の現状を考えますと、早急に国及び道による抜本的な支援スキームを国に示すべきと考えますが、知事はどのように取り組むお考えか、伺います。</p>	<p>〔知事〕 JR北海道の事業範囲の見直しについてであります、JR北海道が、今後とも見込まれる巨額の経常赤字を「線区の見直し」だけで解消しようとするならば、本道の公共交通網に重大な影響を及ぼすことが危惧されるところであり、鉄道網の将来に対し、道民の皆様の不安が広がっていると認識をいたします。 このことに関し、沿線自治体の皆様方から、様々な要請をいただいているところであり、広大な本道において、重要な役割を担っている鉄道網の維持に向けた地域の方々の切実な思いによるものと受け止めているところであります。</p> <p>〔知事〕 JRの経営安定基金についてであります、JR北海道においては、会社発足後の経営基盤の確立を図るため、経営安定基金が設置されたところであります、長引く金利の低下により運用益が低迷をし、当初見込んでいた運用益が得られていないところであります。 この間、国では、鉄道運輸機構による無利子資金の融資など、数次にわたる支援を行ってきているところであります、金利の低下や鉄道利用者の減少などにより、JRは、極めて厳しい経営状況にあるものと認識をいたします。 こうしたことから、道では、これまで、JRが将来にわたり安定した経営ができるよう、長大な路線や青函トンネルを抱える本道固有のコストの軽減や資金繰りの改善などの対策について、国に要請を行ってまいったところであります。</p> <p>〔知事〕 JR北海道への支援についてであります、国は、JR北海道に対し、無利子資金の融資や助成など、数次にわたり支援を行ってきております、利用者の減少や経営安定基金の運用益の低迷に加え、今後、施設の老朽更新に多額の資金を要するなど、JRの経営状況は一層厳しくなるものと見込まれるところであり、道ではこれまでも、道議会の皆様と合同で、資金繰りの改善などの対策を講ずるよう国に要請してきているところであります。 JRでは今後、具体的な内容を公表するとしており、道</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 再</p> <p>知事の答弁からは、結局、JRと国に対し、それぞれ調整役を図るというような道の立場しか見えてきません。私は、道が地方路線の存続に対して、財政支援ゼロなんですよね。スキームが無いということも問題ですが、道として、鉄路を存続するんだという固い決意を持って、腰を据えて知事がしっかりと交渉していくと。こういう決意がおりなのか、伺っておきたいと思います。</p>	<p>といたしましては、地域公共交通検討会議の中に新たに設置をしたワーキングチームにおける議論をスピード感をもって進めながら、JRに対しては、見直しを拙速に進めることなく、地域との信頼関係のもとで取り組むことなどを強く求めるとともに、国に対しては、JRが全道の交通ネットワークを形成する公共交通機関としての役割を将来にわたって果たしていくことができるよう、コスト負担の軽減や資金繰りなど抜本的な支援策を求めている考えであります。</p> <p>【知事】</p> <p>JR北海道への支援についての重ねてのご質問でございますが、道といたしましては、これまでも災害復旧への応分の負担をはじめ、必要な支援を行ってきているところであり、今後においても、利用促進など沿線自治体の方々と連携した協力が必要と考えるところであります。</p> <p>しかしながら、JRへの国の関与や道をはじめとする自治体の財政状況などを踏まえ、JRのコスト負担の軽減や資金繰りの改善などに向けた国による抜本的な支援が不可欠であると認識をするものであります。</p> <p>いずれにいたしましても、地域にとってなくてはならない交通網である鉄路の確保に向け、道としての役割を積極的に果たしてまいりたいと考えております。</p>